

実務研修会（5/21）情報
（全国研修資料パワーポイントを変更してください）

<体協HP資料の削除>

2014. 3. 12 採点規則情報【最新版】の@落下による技術的欠点と芸術的欠点の関係（PDF）削除
します。

<全国研修資料の変更事項>（各都道府県へ配布済みパワーポイント）

総則

スライド 5・・・声と言葉を伴う音楽を使用している際の申告書への記載方法

声と言葉を伴った音楽の使用： ✓

丸と✓チェックを入れる。

丸と✓が両方なくても、減点はしない。

個人難度

スライド34・・・採点規則集のロープの手具操作一覧は手以外での回しが一回転というものを追加

追加：その他の技術グループの ○ まわしに、手以外（1回転）

スライド46・・・DERの待ちが2秒まで可能となったので項目3つ目の変更と追加

追加：受けの待ち1～2秒 カウント

変更：待ちが長い（3秒以上） 全てキャンセル-0.3（静止）

スライド49・・・DERのカウント0.3から→受けの視野外・くぐり抜け、手以外追加し、0.6カウント

スライド51・・・DER 待ちが長い：0.00から変更

変更：   3   0.6 でカウント

個人実施

スライド25・・・構成の統一性において0.5～0.9の減点では差がつかないレベルの評価に必要な減点

という文言を削除

<研修での伝達事項>*FIGアップデート版（4/23）を含む

個人D

・シーザージャンプのシンボルと価値点の確認。

・投げを伴う身体難度は、正しく実施されていれば落下してもカウントする。

*身体難度+DERの受けで落下した場合、身体難度が正確に実施されていれば身体難度はカウントする。

DERはノーカウント。（“投げ”を評価する）

・ジュニア選手の申告において、各難度は最高1.00点までとする。

*回転を伴う身体難度+DERにおいては、ボックスを変えて申告する。各ボックスが1.00を超えない事。

・DERで一步のステップの後でも最低2回の回転の後であれば、受けの基準を正確に実施した場合、受けの基準はカウントできる。

・身体難度に追加できる回転や波動で落下があっても身体難度中に手具の基礎・その他の手具操作を行い身体難度が正確に実施された場合、身体難度はカウントできる。

・ロープのDERにおいて、ロープが床に残ったものはノーカウント、床に触れても（E-0.1）ロープの動きに中断がないものはカウント。

団体D

・「連係の禁止要素4秒をこえて」（FIGアップデート版4/23）については、全国講習にて4秒と講習したの

で、パワーポイントの変更はなし。

- ・C、CC、CR、CRR、CRRR など連係ではすべてサブグループでの実施は許可する。

個人・団体 E

- ・(PPT) 構成の統一性の減点の仕方：追加になった演技中に身体と手具の動きの多様性に欠ける 0.1 も含め、0.1、0.2、0.3、0.4、0.5、1.0 のみの減点となる。(0.6、1.1 の減点にはならない)
- ・身体の表現の減点の仕方：追加の演技全体において速さと強さの多様性に欠ける (ダイナミズム) 0.3 も含め 0.1、0.3、0.5 のみの減点となる。(0.6、0.8 の減点にはならない)

<ユース大会報告>

*申告間違いについて

- ・リボンにおいて、エシャップマークでの申告が多数あった。高さのあるエシャップ投げは、“**投げ**”の申告をすること。
- ・シーザージャンプでは価値の間違い、または記号の間違いが多かった。
- ・パンシェバランスの申告において、上体の高さと価値の認識違いが多かった。
 - ① $\overline{\text{T}}$ 0.5 → 上体は水平位置（やや胸が下がっても、頭が水平位置に上がっていればよい）
 - ② $\underline{\text{T}}$ 0.4 → 上体は水平以下（頭も肩も下がっていること）上体が水平に近く頭も上がっているのに、0.4 のバランスでの申告が多く見られた。

*実施上の問題点

- ・DERの実施で、投げの直後にステップが入る選手が多く見られた。DERはノーカウント。
- ・ $\overline{\text{T}} + \text{V}$ の申告において、小さい突き（3回ない）、またはボールを落とす（突きになっていない）もの多く見られた。難度はノーカウント。
- ・ ∞ の手具操作で、回旋がただの振りになっていることが多かった。難度はノーカウント。
- ・ミックス難度のつなぎの 0.1 がノーカウントになるケースが多かった。（準備動作が長い）
- ・ボールにおける床のころがし（シリーズで3回）が明確でない選手が多かった。（転がしがあまりにも短く見えない）
- ・ダンスステップにおいて、十分曲に合わないケースが多かった。
- ・音楽に対する動きの選択や構成に不一致がみられ、芸術における減点が多かった。